

タイトル：フアニーたい焼きトム4

5 生姜焼き

第一幕：新商品爆誕！

場面1：「たい焼きトム」店内

（朝の開店準備中。トムがたい焼き器の前で腕を組み、何かを考え込んでいる。魚住は掃除をしながらトムをちらりと見る）

トム「魚住！今日はすごいぞ！これぞ、革命的たい焼きだ！」

魚住「……（不安げ）また何か変なこと考えてますね？もう、嫌な予感しかしない……」

トム「嫌な予感？ノンノン！これは美味すぎる予感だよ！さあ、これを見てくれ！」
（ババーンと蓋を開ける）

（鉄板の上に並ぶたい焼き。その割れ目からじゅわっと肉汁が滲み出て、甘辛いタレがツヤめいている。生姜と醤油の香りがふわりと漂う）

トム「ジャジャーン！本日のスペシャルは……『生姜焼きたい焼き』だッ！」

魚住「……はあああ！？たい焼きに生姜焼き！？なんで、なんでそんなことを……！」

トム「なぜかって？それは……ウマイからさ！！」

魚住「（ため息）……いや、絶対おかしいですよ。たい焼きって甘いもんじゃないんですか？ほら、アンコとかカスタードとか！」

トム「それが固定観念ってやつさ、魚住！いいかい？生姜焼きの甘じょっぱさ、豚

肉のジューシーな旨味、それがホクホクのたい焼きの生地に含まれたら……想像してごらん！」

（トムがたい焼きを半分に割る。中からはツヤツヤの生姜焼きが顔を覗かせ、照り焼きソースがとろりと滴る。生地に染みたタレがじゅわっと染み出し、香ばしい湯気が立ち昇る）

魚住「（ゴクリ）……あ、いや、でも……たい焼きってそういうものじゃ……」

トム「食べてみなよ、魚住。ほら、アツアツのうちに！」

（魚住、おそろおそろたい焼きを手に取り、一口かじる。カリッと焼けた皮が心地よい音を立て、甘辛いタレが舌の上でじゅわっと広がる。噛むたびに肉の旨味と生姜の香りが追いかけてくる）

魚住「……………（無言）……………（さらにもう一口）」

トム「どうだ？生地のはんわり甘みと、豚肉の濃厚な旨味が絡み合う奇跡のバランス！この組み合わせ、まさに和洋折衷のハーモニー！」

魚住「……………お、美味しい……………くやし……………！」

トム「だろう！さあ、これを本日のスペシャルメニューに決定だ！」

（店の黒板に『本日限定！生姜焼きたい焼き』と大きく書く）

第二幕：お客のリアクション

（店内。鉄板の上で豚肉がじゅわっと音を立てて焼ける。香ばしい醤油と生姜の香りが漂い、食欲を刺激する）

（トムが生姜焼きをジュウジュウ焼きながら、客の前でたい焼きの皮に包み込む）

トム「ヘイヘイ！焼けたてのジューシー生姜焼きが、アツアツのたい焼きにイン！！」

（客たちはゴクリと唾を飲む）

客1「……こんなの、たい焼きって呼んでいいの？」

（トムがたい焼きをパカッと割る。中から湯気と共に甘辛いタレがとろりとこぼれる。じゅわっとした肉汁が生地に染み込み、香ばしさがさらに引き立つ）

客2「（目を見開く）や、やばい……香りだけで飯が食べそう……」

（客3が意を決してかぶりつく）

客3 「（サクッ）んんっ！！！（目を見
開き、無言で噛みしめる）」

（甘辛いタレが舌の上に広がり、豚肉の
旨みとふんわりとした生地が絶妙に絡
む）

客3 「ウツマ！！なにこれ！？」

客4 「えっ、マジで？俺も……（がぶっ）」

（肉の柔らかさとタレの染みた生地が口
の中で混ざり、噛むたびに旨みが溢れ出
す）

客4 「甘辛いタレが……生地に染みて
る……！」

（店内の客が次々とたい焼きを注文し、
食べ始める）

客5 「これ……噛むたびにタレの染みた
生地から旨みがジュワッと……」

客6 「豚肉のコクが強いのに、生地のみと絶妙に合ってる……！」

（トム、ドヤ顔）

トム 「ホッホー！これが俺の『生姜焼きたい焼き』のパワーだぜ！！」

（SNSで拡散され、店の前には次々と新たな客が並び始める）

魚住 「（呆然）……もしかして、売れるのでは？」

（生姜焼きの香ばしい香りが町中に広がり、行列はどんどん伸びていく……）

第三幕：トラブル発生

（店の外には長蛇の列。『生姜焼きたい焼き』の評判はSNSでも爆発的に拡散され、テレビの取材まで来る事態に）

レポーター「今話題の『生姜焼きたい焼き』！驚きの組み合わせですが、お味の方は……？」

客4「（がぶり）んんっ……！甘じよっぱいタレが生地に染みて……じゅわっと広がる肉汁……！まるで口の中が生姜焼きパラダイス……！」

レポーター「おお、これは驚きですね！では店主のトムさんにお話を伺いましょう！」

（カメラがトムを映す。トムは満面の笑みで親指を立てる）

トム「ヘイ！どうもー！このたい焼き、アメーzingでしょ？」

魚住「（小声）トムさん、調子に乗りすぎじゃ……？」

（そこへ、突然怒鳴り声が響く）

ライバル店主（和菓子職人風の男）「ふざけるなあああ！！！！」

（近所の老舗たい焼き屋『たいやき本舗 亀吉』の店主・亀吉が店内に乱入）

亀吉「こんなのたい焼きじゃない！たい焼きの名を汚すな！！」

トム「おっと！？オールドスクールの特戦状ってわけ？」

亀吉「うちの店は三代続く伝統の味を守り続けてきたんだ！生姜焼きたい焼きなんて邪道もいいたころ！！」

（周囲の客たちがざわめく）

客5「でも、うまいんだよなあ……」

客6「なんかこう、罪悪感を感じながら食べるのがクセになるっていうか……」

魚住「（焦る）や、やばいですよ、トムさん。これ、営業妨害じゃ……」

トム「ノープロブレム！こうなったら勝負しかない！！」

亀吉「なに！？」

トム「どっちのたい焼きが真に美味いか、客の舌に決めてもらおうじゃないか！」

（観客が盛り上がる）

客7「たい焼きバトル！？ちょっと面白そう！」

（ここから、『たい焼き対決』が始まることに）

第四幕：逆転のアイデア

（店の前に特設ステージが組み立てられ、二つの店が対決することに）

司会者「それでは、伝統派 vs 革新派、たい焼き頂上決戦の始まりです！！」

（亀吉のたい焼きは、ふっくらとした皮に粒あんがぎっしり詰まり、まさに王道の味）

客8「うん……これぞたい焼き！安定のうまさ！」

（対するトムのたい焼きは、相変わらず生姜焼きがたっぷりと詰まり、タレの照りが食欲をそそる）

客9「（がぶり）んっ！？ ……う、うま……！！」
でも……でも、たい焼きじゃない！！」

（審査員役の客たちが悩む。そこでトムが動く）

トム「よし、ここで禁断の一手……『追
いキャベツ』！！」

（トムは生姜焼きたい焼きの上に千切りキャベツをたっぷりトッピングする）

客10 「うおおおお！！シャキシャキ感が加わって、さらにうまい！！」

客11 「生姜焼きとキャベツの相性は最高……それをたい焼きにするとは……！！」

（客たちの手が止まらなくなり、最終的にはトムのたい焼きが勝利）

亀吉 「ぐぬぬ……！！」

魚住 「や、やりましたね、トムさん……！！」

トム 「フアニーな発想こそ、たい焼きを進化させるのさ！」

（こうして、たい焼き界に新たな風が吹くことに……）

第五幕：大団円

（対決が終わり、興奮冷めやらぬ店の前。
亀吉は悔しそうに腕を組みながらトムと
向き合う）

亀吉「まさか……生姜焼きとキャベツが
ここまでとはな……負けたよ。」

トム「ヘイ、ジジイ！たい焼きはもっと
自由でフアニーなものだろ？」

（亀吉は少し考え込む）

亀吉「……確かに、若い頃は俺も色々な
挑戦をしたもんだ……だが、いつしか伝
統を守ることだけが使命になってしまっ
た。」

魚住「亀吉さん……」

（亀吉はため息をつき、苦笑しながらト
ムに手を差し出す）

亀吉「よし！認めよう！だが、お前のたい焼きはやっぱり邪道だ！」

トム「オーケー！じゃあ、またバトルしようぜ！」

（がっちり握手する二人。その様子を見ていた客たちが拍手する）

客たち「おおーっ！！」「いい勝負だった！」

（すると、トムの店の前に次々と客が押し寄せる）

客1 2「さっき食べたけど、もう一個いっとくか……」

客1 3「追いキャベツ、クセになるわ……」

（魚住は売上表を見て驚愕する）

魚住「トムさん！今日の売上、記録更新
してます！！」

トム「オーウ！！マジか！！」

（トムは思わずその場で踊り出す）

トム「今日は祝いだ！みんな、たい焼き
食っていけー！！」

（客たちの歓声。トムと魚住が笑い合い、
画面がフェードアウトする）

（エンドロール。トムの店はますます繁
盛し、次なる奇抜なたい焼きの開発に取
り掛かっている様子が映し出される）

トム「次は……カレーたい焼き！？いや、
ラーメンたい焼きか！？ファニーでクレ
イジーなたい焼きを生み出してやる
ぜ！！」

（魚住の顔が引きつる。笑い声とともに幕が閉じる）

（完）

• 第一幕（新商品爆誕！）：約 15～20 分

- トムが生姜焼きたい焼きを考案し、魚住が困惑しながら試作。
- 試食シーンを長めに描写し、SNS 拡散の伏線を仕込む。

• 第二幕（お客のリアクション）：約 20～25 分

- 肉の焼ける音、香り、食感を大げさに描写。
- 初めての客のリアクションが次第に大きくなり、ブームの兆しを見せる。
- SNS 拡散により、行列がで始める。

• 第三幕（トラブル発生）：約 15～20 分

- 老舗たい焼き屋「亀吉」が登場し、対決ムードが高まる。

- 「これはたい焼きじゃない！」という批判と、それに対するトムの反論。

- 亀吉の挑戦状が発せられ、対決へ。

• 第四幕（逆転のアイデア）：約 20～25 分

- たい焼き対決が始まる。

- 亀吉の伝統的たい焼き vs トムの生姜焼きたい焼き。

- 追いキャベツの新要素が投入され、逆転の流れを作る。

• 第五幕（大団円）：約 10～15 分

- 亀吉の敗北 & 和解。

- トムの店のさらなる繁盛と未来の展望。
- 次なる奇抜なたい焼きの示唆で締める。